

今日は何の日？

3 月 25 日は、**電気記念日**(1878 年、銀座で初の
アーク灯)、**樋口一葉の誕生日**です。

閑話休題—蛇の群れに腰を抜かす

春です。春に思い出すのは、幼稚園の頃
の田や畑。ここは子どもの遊び場。田畑の
向こうには国鉄姫新線と山陽本線があり、
蒸気機関車が走っていた。近くの国道は舗
装されておらず、馬車が馬糞を落としなが
ら荷物を運んでいた頃のお話。

年長の頃だったか、上の階に住む H 君と
チョウチョを捕りに出かけた。キャベツ畑
にはチョウチョの幼虫がたくさんおり、成
虫も飛んでいる。

「早く捕りたい！」—その一心で、捕虫
網を持って一目散に走っている僕たち。周
りの様子など全く目に入らない。

「もうちょっとで着くでえ〜」「着い
た!! ちょうちよがおるところ！」

そのまま走り続ける僕たち。車は(もとい、
走っている子どもは)急には止まれないのだ。
喜びのあまりジャンプした僕の目が、ふと
下を見た(今まで前しか見ていなかったのだ)、
その時! 視界に入ってきたのは、大量の
蛇。なんと! 僕の着地地点は、蛇の溜ま
り場だったのだ。蛇が大の苦手の僕の体は、
恐怖のあまり空中で凝縮する。

「ぎゃあ〜！」

悲鳴と共に左足が蛇群の中に着地。同時
に思いきり左足でジャンプした僕の目に
映る、鎌首を持ち上げる蛇が 2~3 匹……。

転げるように走り去る僕と H 君。今も背
筋が凍る“恐怖のキャベツ畑—春の幕”。

一声社: TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

この本はお勧めです!

『海辺の王国』(ウェストール作、徳間書店)

ウェストールはお勧め作品が多い。人間
を実に深く知っている作者です。

本書は、ナチス・ドイツのロンドン空襲
で家も家族も失った少年が主人公。殺伐と
した世の中で迷い犬と一緒に様々な体験
を経て人として成長していく少年。読み手
が自分自身と重ね合わせながら、リアルに読
めます。今の時代にこそぜひ!

保育書&小道具フェア開催中!

★横に伸びる紙芝居!

『わらぶき屋根の家』

(『おはなしの小道具セット③』藤田浩子、所収)

* 演者と同じ言葉を唱えさせて言葉遊び

に! どんどんセリフが長くなるよ!

* 最後は横長 1 枚の絵に! 見るだけでも
楽しい!

◎「わらぶき屋根の家」の動画

は、この QR コードでご覧ください。↓



今日の歌:(石川啄木)

たはむれに 母を背負ひて

そのあまり軽きに泣きて 三步あゆまず
貧窮と病気で苦悩の中、26 歳で早逝。